

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	ウォーリア	Lv.1:		レベル	9
サポートクラス	バーサーカー	Lv.1:	ウォーリア	性別	女
称号クラス				年齢	17
種族	ヒューリン			境遇	親友
出自 (効果)	魔女			目標	返還

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	26	28	9	8	10	18	9
ボーナス	8	9	3	2	3	6	3
クラス修正	2	2	1	0	1	0	0
他修正							
能力値	10	11	4	2	4	6	3

HP	157
MP	85
フェイト	6

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	永遠の剣	至近	-1	CL+10	-	-	-	-2	-
左手	-								
頭部	不沈の冠				-1	7			
胴部	テーゲバックの鎧				-1	9			-1
補助	深紅の腕輪		1		-1	4	-1		
装身具	ファイターズジュエル		2	+1D					
能力値			11	0	4	0	6	8	15
スキル									
その他	森羅の木彫り像					2	2		
総計(右)			13	0					
総計(左)			14	0	1	22	7	6	14
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	4			4	+ 2 d
トラップ解除	11			11	+ 2 d
危険感知	4			4	+ 2 d
エネミー識別	2			2	+ 2 d
アイテム鑑定	2			2	+ 2 d
魔術判定	2			2	+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
野営道具	トくさび
隠者のモノクル	トロープ
ランタン	└火打ち石
小型ハンマー	
ベルトポーチ	ウェポンケース
異次元バッグ	└クリスタルブレイド
軍馬	
	ポーションホルダー
小道具入れ	ト蘇生薬
ト森羅の木彫り像	ト篝火の薬瓶x1
ト泡沫真珠	└篝火の灰薬瓶x3

現在重量:	60	所持金:	205718	預金・借金:	
最大重量:	79				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
オールラウンド	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果:	キャラ作成時に任意の3つの能力基本値+1							
バッシュ	5	4	メジャー	武器	単体	命中		
効果:	武器攻撃を行う。ダメージロールに+[SLd]							
レイザーシャープ	1	-	パッシブ	-	自身	-	CL5↑	
効果:	武器攻撃のダメージに+1Dする。							
Aマスタリー:両手剣	1	-	パッシブ	-	自身	-		
効果:	両手剣の命中判定に+1D							
フリンジスイング	1	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果:	白兵攻撃の命中判定に+1Dする							
ワイルドアサルト	1	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果:	【HP】が【最大HP】未満の時に有効。攻撃のダメージに+1Dする。							
バーサーク	5	3	マイナー	-	自身	自動		
効果:	武器攻撃のダメージに+[SL×3]、リアクションの判定に-1D。							
スラッシュブロウ	3	3	DR直前	-	自身	自動	1/Sc	
効果:	攻撃Dに+[SL×2]D							
ボルテクスアタック	1	-	効果参照	-	自身	自動	1/Sc	
効果:	攻撃Dに+[CL×10]、単体化							
ソウルバスター	1	-	効果参照	効果参照	単体	自動	1/sc	
効果:	被ダメ時に同じ値のHPロスを与える(最大自分の【最大】HP)。							
インデュア	1	5	効果参照	-	自身	自動	1/Guard	
効果:	受けたBSを全て解除する							
ソウルヒート	3	3	《バーサーク》	-	自身	自動	-	
効果:	【狂戦士化(SL+1)】を受ける							
スイッチバック	3	-	判定の直後	-	自身	自動	SL/scene	
効果:	白兵攻撃の命中判定を振り直す							
ブルータルストライク	1	-	効果参照	-	自身	-	両、1/シーン	
効果:	対象のDEF、MDFを無視							
トレーニング:筋力	1	-	パッシブ	-	自身	-		
効果:	任意の能力基本値+3							

「わたしは魔女なんだ。よろしく。」

とんがり帽子(エナン)を被った金髪の少女。鷹揚かつ無感動なたちであり、大抵のものごとに「いいね」と言祝ぐ厭世家。つまるところなにかと頓着しない人間である——“魔女”の冠(な)を除いて。

何故“魔女”と名乗り、それらに固執するのか。もし好奇心などから聞けば、彼女はにべもなく答えてくれるだろう。駄賃として酒の一杯などは強請られるかもしれないが。日く、母の腹に七七七日の間いた。日く、故郷を炎によって滅ぼした。日く——“永遠の剣”に導かれた。寝物語に劣る二束三文の法螺話を、彼女は白けた微笑で語る。魔女ならば魔法を使えるのかと聞けば、使えないと答え、では永遠の剣とは何かと聞けば、腰に吊っている一振りの剣がそうだと言うが、手にとって見ても、それがかくも大層な由來の業物だとは思えない。彼女の普段使いである以上、切れ味は多少なりとも良いが、矢張りそれだけだ。日く、ああそれはそうだ。——この剣は、きつとわたしのものじゃない。

